

新型コロナ「感染状況」警報・注意報 大分県が独自基準で運用開始

8/01 大分放送

レベル	定点当たり感染者数(人)	1日当たり全患者数(人) (第8波から推計)
警報	30以上	1,800以上
注意報	20~29	1,000~1,800
注意報	10~19	300~900
	5~9	200~300

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4f9da7578a8820f3c3c2058602e8764cf89ffd46>

感染者数の増加が続く新型コロナウイルス。大分県は1日から県民に流行状況を知らせる独自の基準を設け運用を開始しました。

7月23日までの1週間に県内で確認された新型コロナの感染者数は1医療機関あたり21.12人。県全体では1日1000人程度と推計されています。感染者数の増加が続くなか、県は県民に流行状況をわかりやすく伝えるために1日から独自の基準を設けました。インフルエンザの基準を準用したもので、定点あたりの感染者数が30人以上で「警報レベル」。10人以上で「注意報レベル」とします。「警報レベル」は1日あたりの患者数が1800人以上と推計されるということです。

(佐藤知事)「熱やせきが出たりする人もいるので注意をしてもらう意味で注意報を促す。おそらく警報の段階になると会見をする形になろうかと思えます」

県はこの独自基準を暫定的な措置としていて、全国統一の基準を設けるよう国に求めています。



新型コロナ注意報など国は基準の整備を 郡仙台市長

8/1(火) 東日本放送



<https://news.yahoo.co.jp/articles/d0f5d564b7f0836dc4d6f89f9c90fae252486c6e>

仙台市の郡市長は増加傾向にある新型コロナについて、国が注意報などの基準を整備すべきとの認識を示しました。

郡市長は1日の会見で、現在仙台市の医療機関はひっ迫している状況にはないとしながらも、国に対し注意報など新型コロナを警戒する目安を示してほしいとの考えを示しました。

郡仙台市長「これからお盆で帰省される方々も増えてまいりますでしょうし、皆様にも感染状況を注視していただき、引き続き様々な対応を心掛けていただくよう呼び掛けていかなければ」

仙台市によりますと、1医療機関当たりの新型コロナ患者は7月26日時点で12.91人と、5月の5類移行後増加傾向にあります。

宮城県の病床使用率は61.5%と、5割を超えています。

